

平成 25 年度第 4 回「墨田区子ども・子育て会議」・ 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成 26 年 1 月 17 日（金）午後 6 時 30 分～8 時 40 分

会場：墨田区役所 131 会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

議 題	資料 No
(1) 前回のグループワークの整理について	資料1 資料2 資料3
(2) 発達に心配がある児童等の保護者及び高校生に対するインタビュー調査の結果概要について	資料4 資料5 資料6
(3) ワーキンググループ内における小委員会の設置について	資料7 資料8 資料9
(4) シンポジウムの素案について	資料10
(5) すみだ子育て応援サイトの運用開始について	資料11

3 次回開催予定

日 時：平成 26 年 3 月 5 日（水）午後 6 時 30 分～8 時 30 分

会 場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

主な議題：区域設定について

教育・保育の量の見込みについて ほか

4 閉会

配布資料

- 資料1 グループワーク（平成 25 年 12 月 2 日実施）発表概要
- 資料2 グループワークにおいて各班から出された意見
- 資料3 第 3 回墨田区子ども・子育て会議のグループワークにより出された意見から導き出される 5 つの理念
- 資料4 事前調査シート（発達に心配がある児童等の保護者用）
- 資料5 事前調査シート（高校生用）
- 資料6 墨田区子ども・子育て支援事業計画策定のためのインタビュー調査結果報告
- 資料7 ワーキンググループ内における小委員会の設置について（案）
- 資料8 「墨田区子ども・子育て会議」と「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」の体系図
【改訂版】
- 資料9 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査等結果の概要と検討ポイント

資料 10 シンポジウム企画書

資料 11 子育て応援サイトイメージ

出席者（敬称略）

○委員

大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科准教授）
高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
野原 健治（興望館館長）
長田 朋久（横川さくら保育園長）
西島 由美（にしじま小児科院長）
鈴木 寛子（あさひ幼稚園副園長）
服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）
財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）
小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
金子 里美（N T T労働組合東京総支部執行委員）
佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
賀川 祐二（N P O法人 病児保育を作る会代表理事）
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
佐藤 摩耶子（公募）
荘司 美幸（公募）
多胡 晴子（公募）
徳野 奈穂子（公募）
福田 三加代（公募）
藤方 洋子（八広幼稚園長）
青塚 史子（太平保育園長）

<欠席委員>

野口 悦子（主任児童委員）
工藤 和俊（小学校 P T A協議会会長）
早川 和宏（中学校 P T A連合会会長）
内田 淳（青少年委員協議会委員）
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
岡墻 克純（両国小学校長）
長谷川 晋也（文花中学校長）

<傍聴>

4名（男性1名 女性3名）

○部課長出席者

酒井 敏春（保健衛生担当部長代理保健計画課長）、関口 芳正（子育て支援担当部長）、小倉 孝弘（子育て計画課長）、鈴木 一郎（児童・保育課長）、内田 正代（子育て支援総合センター館長）、小暮 真人（教育委員会事務局次長）

○事務局出席者

田村、松田

○事務局（株ぎょうせい）

黒澤・酒井・中村

1 開 会

会長	開会する。
事務局	出席状況について、現在の時刻では委員 28 名中 17 名が出席し、定足数を満たしているので会議は有効に成立している。 傍聴者、撮影、録音を行うので了承願いたい。 第 3 回議事録を委員にメールで送付したが、特段修正等はなかった。 前回の会議以降の活動状況について、1 月 10 日（金）企画会を開催した。

2 議題

(1) 前回のグループワークの整理について

会長	第 3 回会議で資料 1 にあたるグループワークを実施したが、委員の声をなるべく反映されたものとして、今後の会議の方向性を定める趣旨で開催したものだ。 資料 1 は事務局でまとめたものである。後で確認してほしい。 資料 2 は 4 グループからの意見の整理された概要である。 これを踏まえ、資料 3 は今後の具体的な作業における大事な理念をまとめたもので、前回からのグループワークから 5 つの理念を整理し、企画会で提示したものだ。 ①子ども最善の利益を優先したものとすること（当たり前だが、前回のグループワークでは徹底してこだわっていたと思う） ②保育の量的な整備のみならず、保育の質を重視したものとすること（待機児童問題もあるので保育の量的な整備は大事だが委員が強調されたのは保育の質であったと思う） ③困難を抱えた子どもと家庭への支援体制を手厚くすること（多くの声があがったと理解しているが、文言がこれでいいか迷った。いろいろな困難を抱えた家庭への支援体制が何よりも大事だという声が高かったと思う） ④地域の子育てネットワークの整備を重視すること（墨田区の持っている地域のよさを生かしたい、地域の人を巻き込んで子育てしていく墨田区をつくりたい） ⑤ワーク・ライフ・バランスを踏まえた支援とすること（保育サービスを進めることは重要だが、区だけでは限界があるものの子育てと仕事の両立のバランスを大事にしたい） このことについてご意見をいただきたい。 今後の作業で、帰るところの大事な理念であり、みなさんの意見から抽出したものである
----	--

	が文言等を整理させていただいたので表現の仕方などについてご意見をいただきたい。
委員	「保育の質」がみなさんに共通しているのか、不安に思う。
会長	私は保育学の専門だが、保育の質は簡単に言えない、保育学会の最大のテーマの1つでもある。これまでの知見を得ながらこれから考えていくことになる。必要な材料は提供させていただく。
委員	子どもの最善の利益の意味がわからない。言葉でひっかかる。 災害医療では自助、共助、公助があるが、ここに自助はないのか。視点としてあったほうがいいのではないか。公助、共助には限界がある。
会長	一人ひとりの子どもが、自分が自分として育っていく意味合いを大事にしていくという意味にとらえられないだろうか。
委員	難しいかなと思う。
会長	児童福祉のいろいろなところで使われている文言なので違う言葉は難しい。
委員	地域の子育てネットワークの整備の「ネットワーク」という言葉があいまい。子育て力とか、自治会、町会、団体等の構成員同士の連携を図ろうというのはわかる。構成員の力や個々の子育て力を上げるのはわかるが、ネットワーク・連携を進めようとする、個人情報などがネックになって難しい。定義した方がいい。
会長	ここでは、いろいろな人たちのつながりの中で子育てする環境という意味だ。ざっくりとした言葉でネットワークを使っているが、地域の子育て力は、いろいろな人がかかわり、つながることを短い言葉にしたものである。ふさわしい文言があれば提案願いたい。
委員	ワーク・ライフ・バランスを踏まえて支援する主語は何か。子どもなのか。
会長	子ども・子育てだから子どもと子育ての両方である。
委員	「地域の子育て力及び連携の強化」はどうか。漠然とした連携はできやすいが、どうやって突破するかが難しい。
会長	「地域の子育て力及び連携を強化すること」という修正提案についていかがか。ネットワークよりはあいまいでなくなったと思う。全体ではほかの意見はどうか。
委員	5点は子育て会議の理念・柱である。具体的な内容はこれから出てくると思うので私はこれでいいと思う。4点目は「子育て力の強化」を入れる方がいいと思う。
会長	このへんでよろしければ進めさせてよろしいか。
委員	「子育て力」の言葉がよくわからない。理念に含めるのはいかがか。
会長	大きな趣旨は、家庭だけでなく、それを支える地域が子育てを支えていく力という意味だ。家庭だけが孤立しないで、いろいろな人・世代がかかわっていく力だと解釈している。それが地域の子育て力というのだと思う。 ある程度意味合いが了解できていればいいと思う。地域の多様な人たちの支えの中で満たされていくという趣旨だろうと思う。 1点修正し、5つの理念でいかせていただく。

(2) 発達に心配がある児童等の保護者及び高校生に対するインタビュー調査の結果概要について

事務局 (株ぎょうせい)	資料4～6について説明
--------------	-------------

会長	これは報告がメインである。質問はいかがか。
委員	発達に心配がある児童と発達障害は異なる。発達障害以外の発達に問題・心配がある児童の保護者へのインタビューはしなかったのか。
事務局 (株ぎょうせい)	表記の仕方を発達障害児というわけにはいかないということだった。正確に言えば児童発達支援に通っているお子さんを区がお願いをしている。障害については保護者が言わない限り特定していない。
委員	内容が発達障害になっている。発達障害児の療育と発達に心配がある子どもの療育は異なる。発達障害は障害の一部であり、一部のニーズしか聞いていないのではないか。
委員	発達障害は障害の一部であり、身体等の障害の子どもも多い。まとめの内容が発達障害にシフトしているので、ニーズ調査の基本にするのはどうなのか。大きな疑問である。
事務局 (株ぎょうせい)	身体、知的障害をインタビューの対象としていないことの指摘なのか。
委員	発達に心配・問題がある保護者へのインタビューという枠で、発達障害児をもつ保護者 9名の調査だけでまとめてしまうのはやや疑問である。
委員	発達障害はそもそも病名である。発達に障害があるのと発達障害は異なる。障害のある子どものごく一部であり、最近は発達障害児が注目され、そのほかの障害児には全く光があたっていないのが気になる。
会長	出発点はこの会議で承認を得ているが、みつばち園とにじの子に通園している子どもを対象としたインタビューとして了承を得ている。
委員	園に通っている子は、発達障害の子だけではない。
会長	通園している子どもの保護者にインタビューするのは出発点だ。進め方としてはこれでよいということでもいいか。
委員	解析が発達障害にシフトしているように読める。
会長	具体的に指摘いただきたい。
委員	全部だ。
委員	まとめの冒頭に記載されている調査実施の目的部分に発達障害と表記されている。すでに目的から身体障害児等は除外されている。たまたま調査を実施したら、発達障害のお子さんがいらっしゃる保護者だけだったというならわかるが、目的のところから発達障害に限定しているのはいかがか。
会長	今の意見だと、今回のインタビュー調査を事業計画作成の材料とするには支障があるということか。
委員	発達障害児に対するものならいい。 発達障害でない、障害のあるお子さんの保護者にもインタビューすべきではないか。
会長	これ以外にインタビューすればいいのではないかという主旨かと思う。
委員	それが可能であるなら良いと思う。
会長	今の意見について他の委員のご意見はいかがか。
副会長	おっしゃる通りで、現実的にできるのか話を伺いたい。
会長	事務局にききたい、開催可能なのか。
事務局	インタビューの趣旨は、ニーズ調査では発達に障害があるお子さん等の保護者のニーズが

	十分に確認できない部分があると思ったので実施したものである。時間的なものもあるので内部で検討させていただきたい。
会長	継続で考えるということによろしいか。
委員	アンケートの結果をどう反映されていくのかわからない。
会長	データから次にどう進めるのかは議論が必要だと思う。今回はコンサルの解釈として聞いた。
委員	調査対象者を募ったらたまたま発達障害児の保護者だけだったのか、始めから発達障害の保護者を対象としたものなのか。 目的に書いてあるので、その他の障害者には調査しないのか。
会長	事務局はいかがか。
事務局	みつばち園とにじの子にお願いしたもので、賛同いただける方に調査したものであり、発達障害かどうかはわからない。
会長	目的は後付と考えてよいか。
委員	目的を書かずに、発達障害の背景を削除した方がいい。 その場合でも参加された方は発達障害であったという記載をしないと間違える。
委員	子ども・子育て支援法の法律で様々な事業や給付を行うためのニーズの調査である。 資料の1ページの発達障害者支援の背景について、発達障害者支援法の網にかかる発達障害者へのニーズを調査してほしいという解釈をしている。 発達に心配がある児童は法律にかかっていないので、まさに光があたっていないかもしれない。子ども・子育て支援法の範囲内で光があたっているかどうか、事務局に調査してもらいたい。 これ以外の障害児については、さまざまな国の制度で対応しているので、今回の調査の対象とならないのではないかと思います。それで今回は発達障害に限定した調査を行ったのではないか。
委員	今の意見で発達障害児に的を当ててニーズ調査をするということであれば納得する。アンケートをみた段階で、発達に心配がある児童という表記だったので、それであれば身体障害も入ると考えた。また、アンケートの中に、医療的なケア等を問う項目もあったので発達障害に限定していないのではと思った。今の説明なら納得した。
会長	子ども・子育て会議の範疇が発達障害児ということならこれをもとにする。そうでないのであれば、再検討となる。それが論点となるということによろしいか。 <異議なし> 事務局に調べてほしい。
委員	アンケート検討の段階では発達障害だけだと思わなかった。法律で縦割りにして幸せになれるのか。支援法をみると障害は触れていないようだ。 皆さんの心の中に発達障害者だけがいるのが不安だ。
会長	事務局には調べてほしい。場合によっては進め方を相談させてほしい。
委員	概要部分の保育教育の希望について、誤解があるといけないので、区立幼稚園の立場で触れさせてもらいたい。 資料P5について、ここ数年、特別支援枠の子どもが増える傾向にあるため、区の方針に沿い、枠を設けやむをえず抽選としている。基本的に、区立幼稚園では軽度の障害児を対

	<p>象に入園募集をしており、軽度の入園児がいることは当然なことである。</p> <p>また、幼稚園は介助員の人数で入園数が決まるとあるが、区立幼稚園では園児の受け入れ可能数が2名程度と決まっており、介助員の人数が先ではない。</p> <p>P7の学校の教職員等も含め発達障害への理解が必要とあるが、墨田区はここに注力している。年間を通して特別支援に関する研修は多い。介助員や臨時職員の参加も可能としている。研修も充実しているので誤解のないように願いたい。</p>
委員	資料P4のアンケート結果について学童クラブの利用がゼロだが、事実なのか。情報が届いていないということか。
委員	たまたま利用がないだけではないか。私の病院の患者さんで利用している方がいる。
委員	高校生の調査で、女子5人は少ない。墨田区に希望することについて、資料6の回答では女子からの回答がまったくない。
委員	両国高校には墨田区民は少ないであろう。
会長	そもそも両国高校を対象とすることは、さんざん議論したはず。
委員	資料は保護者の意見なので、結果は変更できないだろう。よって先ほどの誤解のないようにとの意見は記載できないのではないか。
委員	事実誤認の上にとった意見をそのまま載せても良いであろうか。このように記載されると特別支援の受け入れについて誤解されかねない。
会長	結果は事実であるが、載せるにしても注釈を記載することに問題はないと思う。むしろ間違っていて広報されることの方が問題である。
委員	幼稚園と保育園の支援枠のバランスについても事実ではない。誤解を与えるので事務局にお願いしたい。
事務局(株ぎょうせい)	資料はあるがまま載せたが、誤解が多いだろうということは想定している。報告書は障害者福祉課がチェックしているはずだ。最後にまとめているように保護者に正しく情報が伝わっていないという証拠である。記載方法については事務局で資料の修正、補足を行うべきではないか。
事務局	誤解が生じないよう工夫をする。
会長	では以下の2点にまとめる。
委員	対象の人数が少ないのはどうにかならないか。
会長	追加調査をするかどうかも含め、次回何らかの回答を得ることになると思う。

(3) ワーキンググループ内における小委員会の設置について

事務局	資料7、8を説明
事務局(株ぎょうせい)	資料9について説明
会長	ワーキンググループ内の小委員会の設置の案について、小委員会で行う内容について具体的にわかりにくいと思う。その後、改めて2月にはワーキンググループを開始することに

	<p>なると思う。乳幼児ワーキングは長田委員のとりまとめ、学齢ワーキングは服部委員のとりまとめとなる。具体的なことは了解しながら進められているであろう。</p> <p>構成メンバーは案であるが、不都合がある場合は事務局へ申し出てほしい。</p> <p>長田委員、服部委員のほか、構成メンバーの一番前に書かれている方（西島委員、小菅委員）も連携してとりまとめをしていただくのが案である。</p> <p>ニーズ調査の結果はもっと読みこまないといけない。まずは今日に間に合わせただけだ。質問意見があるか。</p>
委員	<p>保育園と学童クラブは私立と区立を分けているが、幼稚園の区立と私立の集計区分はないのか。</p>
事務局（株ぎょうせい）	<p>設問が区立、私立に分けていない。国のひな形の通りである。</p>
委員	<p>P5については、居住区別の学童クラブの集計について、京島地区は私立学童が充実しているだけだ。区立と私立を合計すれば同じだ。これを記載するのか。</p>
会長	<p>これを読み込む時間はないと思う。お気づきのことがあれば事務局に提案してほしい。</p> <p>小委員会のメンバーについては意見があるかもしれないが、承認いただいたということによろしいか。</p> <p><異議なし></p>

(4) シンポジウムの素案について

事務局	<p>資料10の概要について説明</p> <p>プランを作られた荘司委員から詳しい説明をお願いします。</p>
会長	<p>経緯を説明した。事務局と企画会で協力して前回、案が出された。</p> <p>墨田区のイベントをやっている荘司委員の意見をうかがった。よって荘司委員からの説明をお願いします。</p>
荘司委員	<p>3月2日に開催は決定している。多胡委員と徳野委員と一緒に考えた。</p> <p>企画の目的は、支援新制度のことがあまり知られていないので、わかっただくことである。ニーズ調査では拾えきれなかった声を拾う、という、伝えることと聞くことを目的とする。12月にすみだ女性センターで開催した子育てメッセで経験したことを生かし、ユートリヤで何ができるか考えた企画である。</p> <p>資料10について説明</p> <p>午前と午後は同じ内容としている。マスターホールでの進め方について提案した。</p> <p>乳幼児の同伴については託児20名を設けた。小学生の同伴については小学生向けワークショップとして創作活動室を活用する。</p>
会長	<p>前回、新制度をいろいろな方に知ってほしい、また、みんなでつくることを大事にしたい。</p> <p>特に小さな子を抱える保護者も来てほしい。なるべくトップダウンではなく、いろいろな人が足を運んでもらえる企画を荘司委員、多胡委員、佐藤委員、徳野委員等公募委員に意見をだしてもらった企画である。</p> <p>進行に荘司委員をはじめ公募委員に入っただくことを承認してほしい。私立保育園協会、私立幼稚園協会等にはいつていただきたい。</p> <p>運営や企画を進めていく委員を一任いただきたい。企画会としても当然意見を言っていく。</p>

事務局	委員はどのようにするか、当日の参加状況を確認し、当日の役割を後日連絡したい。
会長	意見はあるか。前回よりソフトになったと思うが、私の登壇時間が長いことが修正されていない。
委員	手話通訳者を用意した方がいいか。
会長	意見があれば伝えてほしい。
委員	横川さくら保育園で一時保育をやって、今年で7年目になる。初めて聴覚障害者の母親の子どもの一時保育の要望があった。電話受付が原則だが区と協議しファックスでやり取りした。母親と面接したが、手話の人を連れてきた。数は少ないがそうした母親がいる場合には必要だと思う。ただ人数が少ないので難しいところだ。
委員	午前と午後の参加者のバランスはどうなのか、分ける必要があるのか。
委員	経験から小さな子どもがいる家庭は午前中の参加が多い。事前申し込みで、だいたいの人数は把握できると思う。
委員	基本的には調整しない方がいいと思うが、午前中でいっぱいになる可能性があるのではないか。
委員	可能性は否定できないが、仕方ないのではないか。
会長	基本的には事前申し込みか。
委員	その通り。
会長	どのような人が入るかは事務局も含めて相談させていただく。

(5) すみだ子育て応援サイトについて

事務局	資料 11 について説明 裏面の下から 4 つ目の保育園のマークは、「保育園・幼稚園」が正しいので修正する。 1 月中にホームページにアップし、見てもらい、不具合があれば随時直させてもらう。 同じ業者がつくったもので江戸川区を紹介している。 今月中にアップするので、ご覧になってから事務局に意見をお願いしたい。
会長	現在の意見はあるか。 <特になし>

3 その他

事務局	第 5 回は 3 月 5 日水曜日午後 6 時 30 分から、会場はすみだリバーサイドホールである。 主な議題は、区域、教育・保育量の見込み等である。
会長	その間にワーキンググループが動きだし小委員会開催となるかもしれない。 よろしく願います。

以 上